

# 児童虐待、その後

子どもの頃に虐待を受け、大人になった障害のある人への支援  
に悩む支援者の学び

# やまびこゼミ

- 基幹相談センターの人材育成の取り組み
- もともとは障害福祉と児童福祉の連携プロジェクト
- 始まりは、自立支援ホームでの支援の悩みから  
(児童福祉と障害福祉の連携が始まったきっかけ)
- 事例検討を重ねる
- 2022年～やまびこゼミとして、「家族」をテーマに取り組む

# やまびこゼミで取り組んだこと 2022

①	4/22	「SOSを見つけ出すために支援者ができることはなにか？」より ①感想の共有 ②自分が家族の支援で悩むこと
②	6/24	「SOSを見つけ出すために支援者ができることはなにか？」より 背景要因考える
③	8/26	「里親ファミリーフォーム」 「進路選択について」
④	10/28	家族ってなに？ ～障害のある人の暮らし方について考える～
⑤	12/23	「パートナーについて」考える
⑥	2/24	文献学習「なぜ女性はケア労働をするのか」

# やまびこゼミで取り組んだこと (2023)

①	4/28	文献学習「殺す親 殺させられる親」 著者 児玉真美
②	6/23	家族を理解するためのジェノグラムについて
③	8/25	介護殺人事件から、家族を考える
④	10/27	児童虐待、その後 ①
⑤	12/22	児童虐待、その後 ②
⑥	3月	未実施

障害福祉の援助技術だけでは  
支援がうまくいかないと感じる事例

## 加工した事例

Aさん 軽度知的障害。

児童施設で育つ。18歳で退園。グループホームで暮らし  
障害者雇用枠で一般就労。

最初は仕事もできていたが、徐々に仕事を休みがちに

ホームは退所。

いま、どうしているかはわからない。

Bさん 軽度知的障害。

生まれてすぐから乳児院。ずっと児童施設で育つ。

親からは連絡なし。親が所在不明の時期も。

18歳で卒園、ひとり暮らし。障害者雇用で仕事に就いていた。

親からお金の無心の連絡が入るようになり、送ってしまう

住民票もうつしてしまい、転出先で本人が「支援はいらない。」と行政に伝えたことで、途切れた。

本人の自己決定ではあるが、これでよかったのか。

障害福祉の支援者としては、  
渡されたバトンを、自分たちがつなぐことができなかつた  
ように感じてしまう。



Cさん 軽度知的障害、発達障害。

親からの虐待を受け幼少期より施設で暮らす。

18歳で卒園。18歳まではほぼ母には会わず。

2年間グループホームで過ごした後、ひとり暮らし開始

音  
ノ  
ス

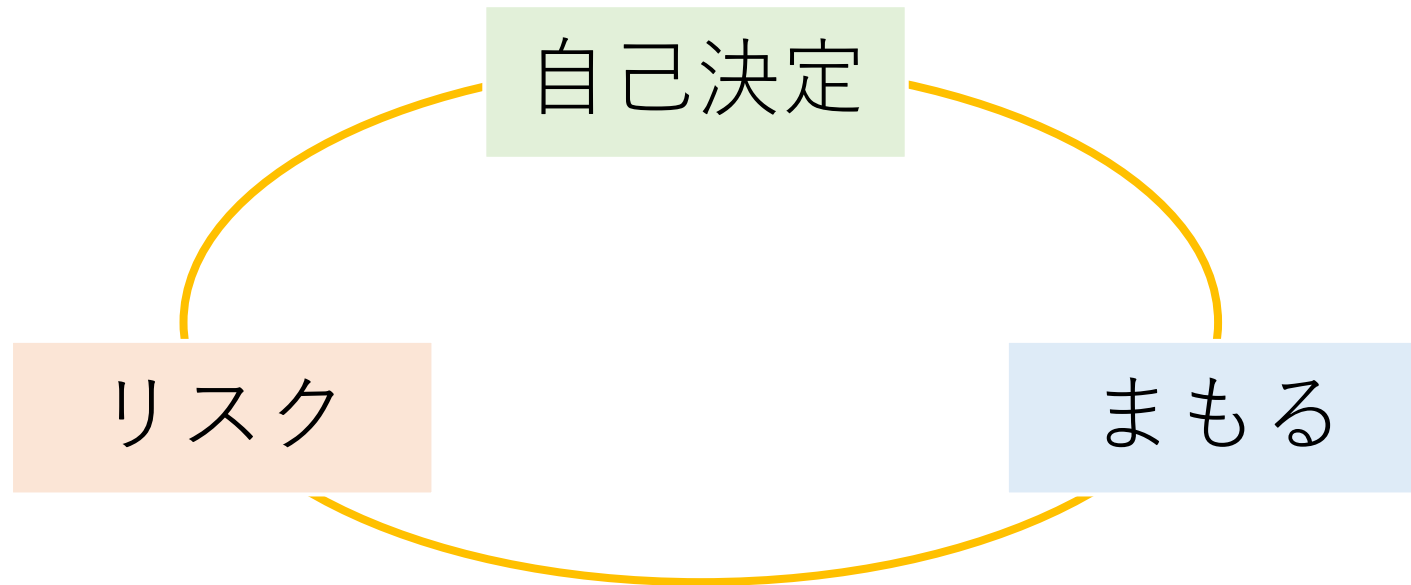
目  
立  
ち  
富  
ノ

び  
ナ

(つづき：軽度の知的障害があるCさんにとって)



→本人に「自己決定してください」ではあまりに厳しい。  
しかし、家族として、親の最後にかかわることが、  
本人の気持ちの整理につながるのかもしれない。  
支援者と本人と相談して対応している最中だが、  
これでいいのかわからない。



このバランスの中で  
悩む

< 支援者の悩み >

首に縄をかけてつないでおくわけにはいかない

「ダメだ」と言っても行ってしまふ

リスクがある方向に行ってしまうことを止められないでいる

どうしたらいいのか？

①

軽度知的障害、境界域のケース  
説明理解・危険察知のむつかしさ

障害によること

トラウマの影響

自己決定への影響

自己決定

②

人との関係のむつかしさ

- ・ 親密すぎてしまったり
- ・ 拒否的な態度をとってしまったり
- ・ 気持ちの表現法が激しい行動だったり
- ・ 自分もこんがらがったり
- ・ ふさぎこんでしまったり

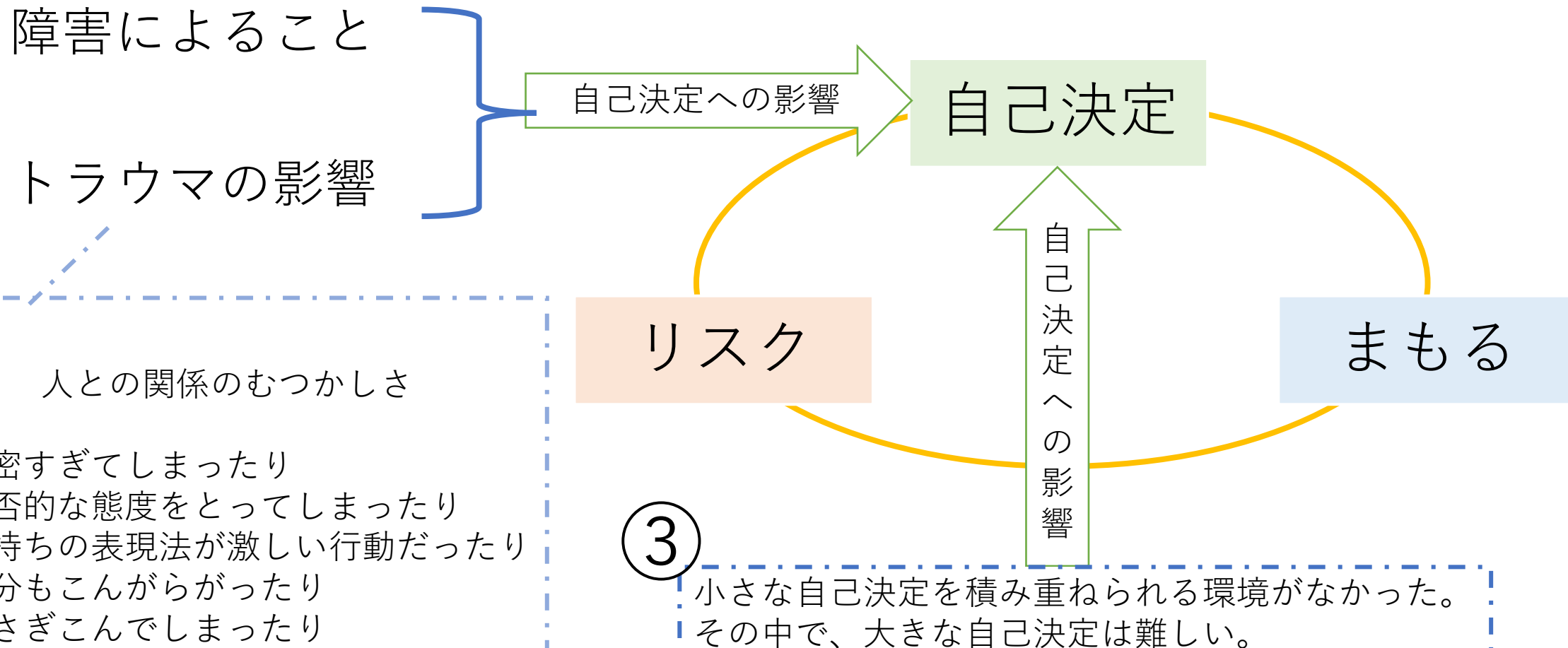
リスク

まもる

自己決定への影響

③

小さな自己決定を積み重ねられる環境がなかった。  
その中で、大きな自己決定は難しい。



①

軽度知的障害、境界域のケース  
説明理解・危険察知のむつかしさ

障害福祉の援助技術で  
対応

障害によること

トラウマの影響

自己決定への影響

自己決定

②

人との関係のむつかしさ

- ・ 親密すぎてしまったり
- ・ 拒否的な態度をとってしまったり
- ・ 気持ちの表現法が激しい行動だったり
- ・ 自分もこんがらがったり
- ・ ふさぎこんでしまったり

リスク

まもる

自己決定への影響

③

小さな自己決定を積み重ねられる環境がなかった。  
その中で、大きな自己決定は難しい。

障害福祉の援助技術で  
対応が難しい

今後ていねいに  
積み上げていく

①は、障害福祉の援助技術でがんばるとして

②③について、援助技術が弱い

→障害福祉の枠組みだけで対応しようとする  
無理が生じる

# グループという感情

グループ = 矛盾した感情が自分の中に存在する

「親に会いたい。けど、会いたくない。」

「親が怖い。けど、親が好き。」

(児童養護施設職員からの助言)

- 親に会いたい気持ちは否定できない
  - 安全に会える方法を考える (付き添い等)

### ③について

自分で小さな決定を繰り返すことができなかった人生

児童施設での取り組み（小さな決定の繰り返し）

- ・ 入所してきた子どもと、一緒にお茶碗を買いに（選ぶ）
- ・ 「NO」と言える練習
- ・ 行事への「参加」「不参加」を自分で決める
- ・ 自分の安全レベルを選べる



根拠法の違い

18歳までは措置の仕組みも含めて「子どもとして守られる」

成人になると…、

# 児童養護の経験者からの助言

- 里親ファミリーホーム
- 児童養護施設

「リスクをきちんと伝えて、それでも行くなら止めない。でも、怖いことがあったら逃げてくるように伝える」

「逃げ方も具体的に伝える」「怖いことが何か」も伝える。

そのためには支援者も「ホストとはどういうものか」

「性風俗とはどういうものか」を勉強しないと伝えられない。

- マッチングアプリでの交際は普通になっている
- 大津にもホストクラブがある

支援者があまりにもしらなすぎる←説明ができない

自己決定

①②③より…

自分で選択をするのは酷な場合もある

本人には、  
守られる権利がある

リスク

まもる

守りたい気持ちだけで動くと  
本人の気持ちとずれてしまう

- ・ メリット、デメリットちゃんと伝える
- ・ 情報をちゃんと伝える
- ・ 私はこう思うけど、他の人の意見も聞いてみて。
- ・ 本人が危ない選択をしたと思う時は  
「逃げる場面」を具体的に教える。  
「逃げ方」も教える。
- ・ 「ピンチになったら助けを求めてね」

知的障害、発達障害が  
あると、言語での説明  
では伝えることがかなり  
難しい

障害分野の職員として戸惑っている事…

社会的養護の施設等で育った障害のあるケース  
(軽度知的、発達障害、精神障害)

ひとり暮らしは困難、自宅にも返せない

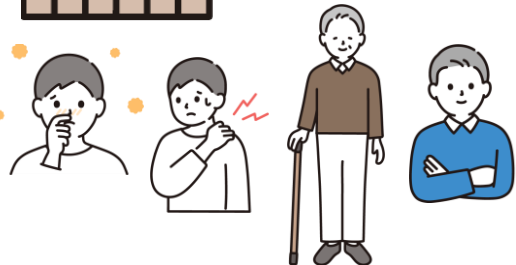
と、なった時、卒業時「**グループホーム**で」と言われる。

児童施設では1対1の職員配置のような手厚い中でケアを受けてきた人たち。

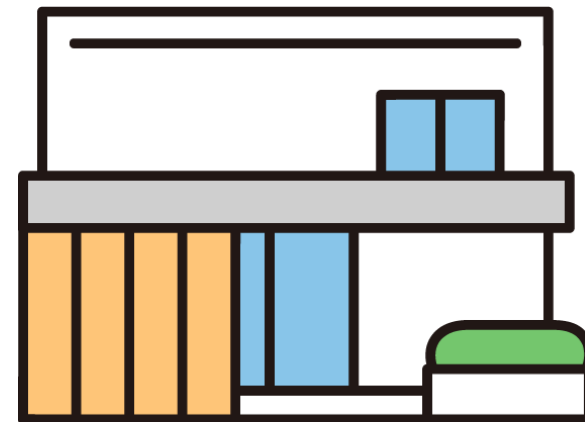
**グループホームは、障害福祉＋社会的養護の支援ができるような制度設計にはなっていない。**

生活支援員1名

キーパー  
日替わり

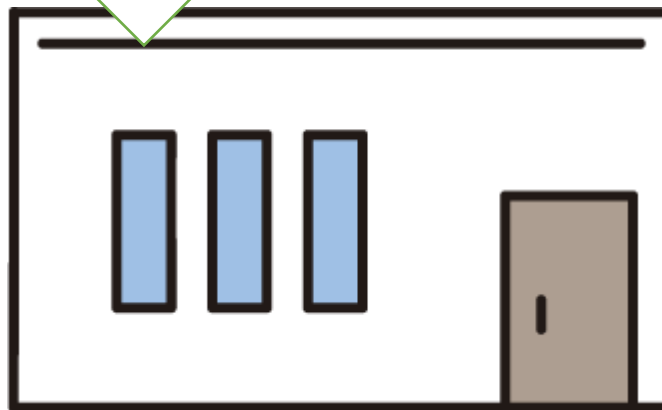


キーパー  
日替わり



訪問

キーパー  
日替わり



生活支援員は、有資格者であることが多いが、  
複数のホームを掛け持ちしていて、巡回している。

基本的に、グループホームにいるのはキーパーさん  
キーパーさんは採用の際、以下のように言われていることが多い。  
「ご飯を作ったり、お掃除をしたり、お話し相手をしてください」  
「未経験でもできる仕事です」

障害に対する援助技術＋社会的養護に対する  
援助技術が必要なケース

⇒キーパーさんは支援に戸惑う

# 選択肢が少ない中で、どうすればいい？

社会的養護から、障害福祉の支援チームに渡していくときの  
**のりしろ**がない。

**のりしろ**はどうやったら作れるか

①のりしろはどうつくるか

②成人期にはどんな社会資源で、どんなサポートをできるのか

**悩んでいる最中です。**